

## そのだ医院紹介

そのだ医院は昭和57年、初代院長である故・園田紘征が、湯前町中里に「湯前医院」として開業し、平成元年に湯前町下里に移転したのを機に「八紘会そのだ医院」と改めました。現在は三代目の坂田院長のもと、スタッフ一同元気に業務に励んでおりますが、今日のそのだ医院があるのは、不思議なご縁によるものといっても過言ではありません。

平成21年6月、当時院長であった夫・園田紘征が他界しました。夫の存命中に、私の従兄弟にあたる現院長の坂田先生に来てもらう話は決まっていたのですが、平成22年4月からという約束で、それまでの間は院長不在のため医院の存続が不可能となり、閉院を余儀なくされました。

夫が、心血注いだ”地域に密着したそのだ医院”を閉めてしまうのは断腸の思いでしたが現状を受け入れ、医院スタッフに閉院の告知をしようとしたまさにその時、目の前の電話が鳴りました。電話は、鶴田湯前町長からでした。なんと後任の先生が見つかったと言われるのです。スタッフにどう話そうかということで頭がいっぱいだったので、町長の言葉がにわかに呑み込めませんでした。

その後任の先生というのが、前院長の山口一成先生です。

話は遡り前年の平成20年のことです。夫が球磨川鉄道の株を湯前町に寄付した折、熊日新聞社から取材のため記者さんが来られました。

この記者さんと夫はその後、何度か飲食店などで顔を合わす機会があり、顔見知りの間柄だったようです。その後夫が他界し、閉院の危機にあることを町長より聞かれた記者さんから「父が医者で、今はフリーなので話してみましよう」と提案いただいたということです。つまりこの記者さんが山口先生のご子息だったのです。

縁と偶然を一緒にはできないかもしれませんが、たくさんの偶然の重なりにただただ驚くばかりでした。

そして、話はとんとん拍子に進み、翌7月には山口先生をお迎えし、そのだ医院は息を吹き返しました。

それから平成22年3月まで、山口前院長には当院のみならず、湯前町の保健衛生のために多大なる貢献をしていただきました。

最初は、あまりにもご立派な経歴の先生でしたので、気後れのようなものも感じていましたが、

## そのだ医院紹介

気さくで温かい人柄は多くの方に慕われ、本当に良い先生にきていただいたと今でも感謝の気持ちでいっぱいです。

現在も、八紘会そのだ医院の理事を務めていただいています。

そして平成22年4月からは、現院長の坂田先生に来ていただきました。

生前の夫と坂田先生は、何回も話し合いの場を持ち、夫の「先生にここを譲ってもいい。とにかく医院だけは継続してほしい」という言葉に坂田先生は「ここにはちゃんと後継者も育ているし、僕はそのつなぎができればいいと思っています。僕は、そのだ医院の坂田でいいです」と言ってくれました。その言葉に夫は男泣きに泣きました。

「いやあ、坂田先生は、いい先生だ」と言った夫の安心した顔を忘れることはできません。

坂田先生は胸部外科が専門で、深い知識と経験を持たれ、今後ますます活躍されると期待しています。当院の目指してきた「地域のかかりつけ医」としても人吉球磨にすっかり馴染まれ、早朝のジョギングやツーリングなど、私生活でも球磨郡を満喫されています。

一時は閉院の決断をしたものの、不思議なご縁により山口先生、坂田先生とたすきを繋ぐように、そのだ医院は受け継がれてきました。

これは、郷土愛の深かった園田紘征の執念にも似た強い思いが、私を、またそのだ医院を導いてくれていると思わずにはられません。

「ウチ(当院)がないと、湯前や地域の人の困んなっよ・まだまだ頑張れ！」

そんな園田の声が聞こえてきそうです。

湯前町周辺地域の医療の灯をともし続けることができたことを園田紘征はきっと喜び、これからも見守ってくれると信じています。

スタッフ一同、地域の皆様に親しまれる医院として、これからも精進していきたいと思っています。今後とも、そのだ医院に変わらぬご支援をお願いいたします。

八紘会そのだ医院 理事長

園田 篤子